

2005年度第5回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2006年(平成18年)1月25日(水) 16:00～16:35

場所：L-911

出席者：計 84名

欠席者：計 34名

配布資料：

A. 当日配布資料

1. [資料1]「グランド・レイアウト 第2期(2006～2010)に向けて」
2. [資料2]企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書
3. [資料3]長期計画企画拡大会議 委員名簿
4. [資料4]各検討専門委員会 委員名簿

B. スライド資料

- a. 建物の解体・改修・新設
- b. 上智短期大学の充実と将来展望
- c. 専門部会 今後の検討課題

議 事

会議に先立ち、配布資料の確認と説明があった。

1. 長期計画進捗状況について

(a) 解体・改修工事等について

粕谷総務担当理事から、スライド資料をもとに解体・改修工事の進捗について説明があった。

また、教室棟の新設について、2006年7月頃から作業を開始し、2007年9月に完成を目指しているとの説明があった。

(概要)

- 上智会館棟・購買棟、6号館について
 - 2006年1月10日解体準備作業開始、2006年10月に跡地整備工事をを行い終了。
 - 6号館は学内教育環境に鑑み1年後を目途に解体。上智会館別館(ソフィアンズクラブ)は6号館と同時期に解体。
- 新設教室計画
 - 地上5階・地下1階。教室(11教室、約1,300席を予定)、会議室、カフェテリア(地下)を設置。
- ホフマン・ホール改修
 - 2001年度を第1期として、改修工事を行っている。
 - 第5期(2005年度)まで、17項目の工事内容で、約1億4807万円の支出。
 - 主な工事：各フロア便所および湯沸し室改修、和室・旧女子学生相談室・写真暗室改修、シャワー室・更衣室・洗濯室改修、トレーニングルーム改修
- 2号館竣工に伴う既存建物・施設の改修・移転計画進捗状況
 - 2005年9月28日開催の2005年度第3回長期計画企画拡大会議で報告した計画で、進行中となっていたものはすべて作業が完了した。

(b) 上智短期大学の充実と将来展望について

高祖短期大学長から、「上智短期大学の充実と将来展望」について、スライド資料をもとに説明があった(短期大学事務センター・倉本チームリーダー(上智短期大学専門委員会事務担当)が内容を朗読した)。

(概要)

- 上智短期大学の将来構想については、2002年3月に前学長から一度提案があったが、再度短期大学内で検討を重ね、現在の短期大学の充実を優先させるという方向で検討を進めることになった。
- 30年余りの実績を踏まえ、「学務」、「学生生活支援」、「研究活動」、「地域支援」の4分野を中心に、短期大学の充実を図る。また、それらとの関連で将来計画を探求し、実現の方策を検討する。
 - ▶ 短期目標(2002～2003年): 「問題点の整理と改革の方向の策定」、「改革の具体的な実施計画作成」
 - ▶ 中期目標(2004～2008年): 「短期大学の充実にむけた改革の遂行」、「自己点検をふまえた将来構想の検討(2005年度と2006年度に自己点検評価を実施)」
 - ▶ 長期目標(2009～2011年): 「将来構想の実現」、「地域支援活動の強化・展開」、「外国語センター設置の検討と実現」を目指す。
- 2005年度までに短期目標および中期目標の前半までを達成した。
- 2006年度は、改革の継続とともに、自己点検評価、第三者評価(2007年度の予定)をふまえて、中期・長期目標の中心である将来構想の検討を進める

《質疑応答》

Q. 短大という形態で、今後も学生は募集できるのか。

A. 2006年度入試については、2005年度よりも志願者数は増えている。また、神奈川県西部および静岡県東部地域にとどまらず、日本全国から志願者を集めており、定員割れという事態にはなっていない。過去の実績や改革の成果が実を結んでいると考えるが、将来については不透明なところもある。(高祖短期大学長)

Q. 四谷キャンパスへの編入学の優先枠はどのようになっているのか。

A. 現在、特別編入試験として10名の枠がある。実際には多くの希望者があり、短大でも対象者を絞り込んでいる。現在、10名の枠をさらに広げてほしい旨、入試委員会に要望を出しているところである。(高祖短期大学長)

2. 専門部会 今後の検討課題について

事務局より、スライド資料の朗読があった後、高祖理事長から、各委員会が立ち上げた検討課題のうち、結論が出ていないものについては、グランド・レイアウトの第2期に向けて、更なる審議を進めてほしいとの発言があり、関係者の協力を要請した。

3. グランド・レイアウト 第2期(2006～2010)に向けて

粕谷総務担当理事から、資料1「グランド・レイアウト 第2期(2006～2010)に向けて」について説明があった。また、石澤学長から、以下の発言があった。

- グランド・レイアウトは、時代の推移を見ながら、絶えず見直しを行い、修正版を作成していく予定である。

- 上智大学は、恒常的な自己変革を行い、改革を進めていく。そのためにも、各検討専門委員会で検討課題を練り上げ、改革案の提出をお願いしたい。
- 世界に並び立つ大学を実現するためにご協力をお願いしたい。

《質疑応答》

- Q. アカデミック・プラン等検討専門第2委員会の検討課題に、「研究業績主義」というものがある。大学の使命からいって「教育業績主義」も考えられるが、「研究業績主義」とはいかなることを指すのか。教育面も重点課題にしてほしいという希望もある。
- A. 教育と研究は密接不可分の関係であることは言うまでもない。アカデミック・プラン等検討専門第2委員会は、大学院や研究面を重点課題として検討する委員会であるが、同委員会が研究面に関わる検討課題として掲げたものであることをご理解いただきたい。実際の内容については、同委員会で検討をお願いすることになる。(石澤学長)

※議長から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2006年2月18日(金)までに事務局(総務局 総務・経営企画グループ)まで提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

4. 次回会議について

次回は、2006年3月1日(水) 15:30から、L-911で行うこととする。

なお、高祖理事長から、各検討専門委員会に対し、積み残しの課題について重点的に検討・審議を進めてほしいとの要請があった。

以上